

### 第3学年3組 社会科学学習指導案

平成27年5月13日(水) 第3時 3年3組教室 指導者 小松 陽子

## 1 単元 2 構想

世界恐慌と日本の中国侵略

前単元の学習では、第一次世界大戦においてヨーロッパを中心に甚大な被害が発生したことや民衆の声が高まったことを学んだ。中国や朝鮮の民族運動、日本の社会運動の広がりを文献資料から読み取ることができた。しかし、中国や朝鮮の民族運動に対する日本の対応をどのように考えるかについて話し合う場面では、一部の生徒の発言にとどまり、活発な話し合いが行われなかった。これは、資料を読み取る時間の不足や話し合いに対する必然性を持たずことができなかつたことが原因である。

本単元は、世界恐慌と日本の中国侵略について、各国の経済政策や政治体制の変化を学習する。その中でも、深刻な不況に陥った日本が満州を手に入れるべきか、手放すべきかを追究していくことで、当時の国民の戦争に対する思いに気付き、平和の尊さを考える単元を構成することにした。アメリカから広がった世界恐慌に対して、各国は経済を立て直すための政策を行った。イギリスやフランスのブロック経済、アメリカのニューディールなど、各国は自国優先の政策を行った。一方で、イタリアやドイツではファシズムが台頭し、経済活動は活発になったが人々の自由は奪われた。日本では、関東大震災の混乱のなか、世界恐慌によって国民生活が困窮した。この危機から脱するために主張されたのが、満州の植民地化である。当時の日本では、地下資源の豊富な満州を日本が支配すれば、国民生活は豊かになるだろうという考えと、満州を支配するための軍事費によって国民の生活はさらに苦しくなるという考えがあった。前者を主張したのが関東軍の石原莞爾であり、後者を主張したのが新聞記者の石橋湛山である。関東軍が満州事変を引き起こし、満州は日本の植民地となった。日本は満州を起点にして中国へ侵略し、15年にも及ぶ戦争が始まることとなる。今年は戦後70年の節目の年でもあり、日本がどのようにして戦争を拡大していったのかを日本人として改めて歴史を見つめ直す必要があると考えた。

本学級の生徒たちは、日本が太平洋戦争の敗戦国であることは知っているものの、当時の世界情勢やその時代に生きた人々の思い、日本が満州を侵略した経緯についてはほとんど知らない。そこで、本単元を設定することで、世界経済のつながりが各国に影響を及ぼし、その影響は各国の関係や国民の生活にまで及ぶことに気付かせたい。そして、当時の人々は世界情勢や国民生活を何とか改善しようと考え、満州を支配する道を選んだことに気付かせたい。このような学習を通して、史実を受け止めるだけでなく、当時の人々がどのような歴史を動かしたのかについて考えられる生徒を育成したい。

導入では、アメリカで無料食堂に並ぶ労働者の写真を提示し、世界恐慌の影響、ブロック経済、ニューディールについての資料を配布する。失業者が増加した理由やイギリスやアメリカの政策について調べたことをもとに両国の政策について話し合い、日本が行うならどの国の政策が適しているのかを考える時間を設定する。次に、ヒトラーやムッソリーニの思想や政策が分かる資料を配布し、全体主義のもと人々の自由が奪われたことを調べる時間を設ける。全体主義下での生活について否定的な意見を見つめ直すために、ドイツの人々はナチス政権下での幸せを感じていたことが分かる資料を提示する。様々な事実から、日本の状況を浮かび上がらせるために複数資料を提供し、日本全体が不況に襲われ、国民生活が崩壊する可能性があることに気付かせたい。このような状況の打開策を考える時間を設け、生徒から「植民地を増やす」という言葉を導き出したい。そこで、石原莞爾と石橋湛山の考えを紹介し、どちらの意見に共感するかを考える活動を取り入れる。二人の考えの根拠となる資料を配布し、共感する理由をノートに記述するように指示する。その後、石原か石橋かという立場を明確にし、満州を手に入れるべきか、手放すべきかについて話し合う場を設定する。石原派と石橋派が意見を見つめ直すきっかけとなるような意見を取り上げ、友達と自分の考えを比較できるようにしたい。また、満州事変後の日本への諸外国の感情を考える場を設定し、史実を見直すきっかけにしたい。満蒙問題について自分なりの川柳を作成する活動を行い、多くの人が犠牲にならずにすむ政策の大切さに気付かせたい。満州事変について自分と友達の考えを比較しながら考えを構築していくことは、史実から総合的に考える力を高め、持続発展可能な社会の担い手となる生徒の育成につながると考える。

#### 【電海式ESDカレンダーと単元の関連】

##### 「多面的、総合的に考える力」(最重要視点)

「石原莞爾か石橋湛山か、どちらを支持すべきか」という課題について、多面的、総合的に考えられるように、自分の立場を明確にして、友達の見解に付け足しをしたり、自分とは立場の違う意見を取り入れたりして話し合いをする。歴史的な事象について自分の考えを深められるようにする。

## 3 単元の目標

- (1) 昭和初期から満州事変までの我が国の政治や外交の動き、欧米諸国の動向に対して関心を高め、世界情勢や国民の生活について、意欲的に追究しようとする。
- (2) 世界恐慌に対する各国の政策や状況、日本の満州侵略について、仲間と考えを関わらせ、新たな考え方を取り入れ、知識を深めることができるようにする。
- (3) 欧米諸国や日本に関する資料や写真の読み取りから、各国の状況について情報を適切に選択して、自分の考えをまとめることができるようにする。
- (4) 世界恐慌と各国の政策や政治体制の変化、日本の満州侵略の経緯について理解することができる。

#### 4 指導計画（8時間完了）

学習内容	生徒の活動・思考の流れ	時間	手だて・支援
○世界恐慌とブロック経済 ・世界経済への悪化	<p style="border: 1px solid black; padding: 2px;">世界恐慌に対するイギリスやアメリカの政策について考えよう</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・イギリスやフランスはブロック経済で乗り切った。</li> <li>・アメリカはニューディール計画で国民を助けた。</li> <li>・ソ連は計画経済によって恐慌の影響を受けなかった。</li> </ul> <p style="border: 1px dashed black; padding: 2px;">各国は自国優先の政策をとったが、自国を守るためには仕方がなかったかもしれない。</p> <p>&lt;植民地の少ないドイツや日本はどんな政策を進めたのかな&gt;</p>	1	<p>【手だて b】イギリスやアメリカの政策についての資料を配布する。</p> <p>【手だて d】日本が行うならどの国の政策が適しているのかを考える時間を設定する。</p>
○欧米の情勢 ・イタリアとドイツの全体主義と民衆	<p style="border: 1px solid black; padding: 2px;">ファシズムの台頭について考えよう</p> <p>【イタリア】独裁政治をしていたムッソリーニのエチオピア併合 【ドイツ】ヒトラーのナチスの躍進で全体主義国家への道を歩んだ（ファシズムの台頭）。</p> <p style="border: 1px dashed black; padding: 2px;">全体主義において民衆の生活は脅かされているばかりでなく、ナチスの政策によって幸福を感じた人々もいた。</p> <p>&lt;世界恐慌で日本はどのような影響を受けたのだろうか&gt;</p>	1	<p>【手だて d】ナチス政権下で当時のドイツ国民はどのような気持ちでいたのかを考える活動を取り入れる。</p> <p>【手だて d】ファシズムに対するドイツ国民の考えを示す資料を提示する</p>
○世界恐慌と日本の政治経済 ・都市の失業者と農村の危機	<p style="border: 1px solid black; padding: 2px;">世界恐慌の中で日本はどのような様子だったのか考えよう</p> <p>【金融恐慌】銀行の倒産を心配し人々がお金を引き出し大混乱。 【昭和恐慌】アメリカへの生糸の輸出が減り、不景気に。 【農村危機】農産物の価格の急落、大凶作、都市部からの人口流入、身売りや欠食などの問題、小作争議・労働争議へ。</p> <p style="border: 1px dashed black; padding: 2px;">都市でも農村でも人々の生活は苦しくなり、政治に対して不満を持つ人たちの声が大きくなった。</p> <p>&lt;国民の生活が苦しいなか、日本においても欧米各国のような政策を進めることができるのだろうか&gt;</p>	1	<p>【手だて b】様々な事実から日本の状況を浮かび上がらせるために複数資料を提供し、思考を深めるのを促す。</p> <p>【手だて d】このような日本の状況を打開するために自分ならどうするかと問いかける。</p>
○満州事変 ・主戦論と不戦論	<p style="border: 1px solid black; padding: 2px;">石原莞爾か石橋湛山か、どちらを支持すべきか考えよう</p> <p>【主戦論】①満州を起点にして植民地を拡大するべきだ。②ドイツやイタリアのように他国に侵略したり、軍需産業で経済を立て直したりするべきだ。③満州で土地を開墾すれば農民も喜ぶ 【不戦論】①民衆の生活は苦しい中で戦争を始めたら、より苦しくなる。②五四運動のような日本に対する運動が激しくなって、各国との関係が悪くなる。③満州は寒冷地で農業に向かない</p> <p style="border: 1px dashed black; padding: 2px;">日本の国民生活が苦しくなり、多くの人々がそれを満州へ進出することで解決しようとした。主戦論・不戦論ともに日本を守りたいという願いは同じだったんだ。</p> <p>&lt;日本は満州に対してどのような行動を起こしたのだろうか&gt;</p>	2 本時 2/2	<p>【手だて a】「満蒙問題」に対する石原莞爾（主戦論）と石橋湛山（不戦論）の考えを取り上げ、どちらの意見に共感するかを考える活動を取り入れる</p> <p>【手だて c】石原か石橋かという立場を明確にすることで、自分の意見を述べやすくすると同時に、友達との考えと自分の考えを比較しやすいようにする。</p>
○日本の政治の変化と日中全面戦争	<p style="border: 1px solid black; padding: 2px;">満州事変後、日本はどのようになっていったのか考えよう</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・満州事変は日本が仕組んで起こした事件なんだ。</li> <li>・国際連盟から脱退してまで満州国を支配する必要があった。</li> <li>・軍の青年将校たちの行動が日本の政治を変えてしまった。</li> </ul> <p style="border: 1px dashed black; padding: 2px;">日本政府は、国際連盟から勧告を受けたにも関わらず、軍部の暴走を止めることができず、国際社会から孤立した。</p> <p>&lt;日本は、満州国の次にどこを支配しようとしたのだろうか&gt;</p>	1	<p>【手だて b】満州事変を起こした日本に対して諸外国はどのような感情を抱いたのかを考える場を設定する。</p> <p>【手だて e】日本の政策に対する改善策はなかったのかと問いかける。</p>
○世界恐慌から満州事変までのまとめ	<p style="border: 1px solid black; padding: 2px;">満蒙問題についての川柳を書こう</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・やはり満州に進出するしかない。そういう時代であった。</li> <li>・中国・朝鮮の人々と協力する関係を結ぶべきである。</li> <li>・アメリカ・ソ連などとブロック経済をつくってみてはどうか。</li> <li>・外に出るのではなく、内需を拡大する政策こそ必要だ。</li> </ul> <p style="border: 1px dashed black; padding: 2px;">この時代ならではの状況はある。しかし、多くの人が犠牲にならずにすむ政策こそが大切なのではないだろうか。</p>	2	<p>【手だて f】前時までの学習を生かし、満蒙問題についての川柳を書く活動を行う</p> <p>【手だて c】自分の考えを発表する「満蒙問題川柳品評会」を開催し、学びを自分のものに定着させる</p>

5 本時の授業

(1) 授業名「石原莞爾か石橋湛山か、どちらを支持すべきか考えよう」

(2) 本時の目標

- ・満州を手に入れるべきか、手放すべきか話し合う場で、調べた資料を根拠に自分の考えを発表しようとする。
- ・他者の意見や情報を良く吟味して、世界恐慌に対する日本の解決策を考えることができる。



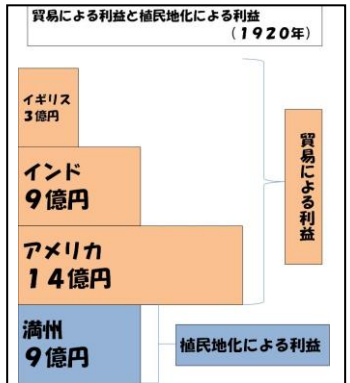
(3) 準備

教師：石原莞爾と石橋湛山の写真、発表資料を拡大したもの、新聞記事、ネームマグネット、  
生徒：ノート、発表資料、教科書、資料集

(4) コミュニケーション活動の位置付け

- ・自分の考えに他者の考えを取り入れて伝えられるようにするため、根拠となる資料をもとに話し合いをしたり、アイコンタクトや付けたし発言の奨励をしたりする。

(5) 指導過程

生徒の活動	手だて・支援										
<p>1 石原莞爾と石橋湛山の思想を確認する。(2)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「石原莞爾は国民生活を安定させるために満州を占領する必要があると主張した」</li> <li>・「石橋湛山は国民生活のさらなる悪化を防ぐために満州を手放すべきだと主張した」</li> </ul> <p>2 本時の学習課題を把握する。(2)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・二人の人物への興味・関心を高めるために写真を提示し、彼らの主戦論と不戦論を確認する。</li> <li>・本時の学習課題を掲示する。</li> </ul> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;"> <p>石原莞爾</p>  </div> <div style="text-align: center;"> <p>石橋湛山</p>  </div> </div>										
<p><b>石原莞爾か石橋湛山か、どちらを支持すべきか考えよう</b></p>											
<p>3 満州を手に入れるべきか、手放すべきかについて、話し合う。(25)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒が友達の発言をきちんと聞けるよう、座席をコの字型にする。</li> </ul>										
<p><b>【手だてcに対して予想される生徒の姿】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・友達に自分の考えの根拠を伝え、共感を得ようとする姿</li> <li>・自分の意見と発表する友達の意見を比較して、自分の考えを見つめ直す姿</li> </ul>	<p><b>【手だてc】</b></p> <p>様々な物事を関連付けて考えられるようにするため、生徒が発言する際に考えの根拠となる資料を提示し、黒板に貼付していく</p>										
<ul style="list-style-type: none"> <li>・「予想される生徒の考え」</li> </ul> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p>&lt;満州を手に入れるべき&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「中国の日本に対する抵抗が大きくなる前に、満州を手に入れるべきだ」</li> <li>・「日露戦争などでこれまで多くの犠牲を払って得た満州の鉄道などを利用して満州を手にするべきだ」</li> <li>・「満州を手に入れて、さらに植民地を拡大すれば、イギリスのようにブロック経済ができるので日本は豊かになるはずだ」</li> <li>・「満州を手に入れて、新しい工場をつくらせて日本の失業者に仕事を与えれば、アメリカのようなニューディールができる」</li> <li>・「国民生活を一刻も早く救うために、満州を手に入れて、貿易を活発にするべきだ」</li> <li>・「満州の広大な土地を耕して農地になれば、貧しい農民にとっては希望ができる」</li> </ul> </div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒同士で情報を共有するために、考えの根拠となる資料を伝えてから自分の考えを発言するように指示する。</li> <li>・「満州を手に入れるべき」と「満州を手放すべき」の意見を分けて板書し、対立軸が明らかになるようにする。</li> <li>・歴史的背景をもとにした話し合いができるように、考えの根拠をこれまでの学習から見つけるように伝える。</li> <li>・満州の植民地化で得られる利益と各国との貿易による利益についての意見を取り上げ、満州を手にするべきという意見を見つめ直す時間を設定する。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>貿易による利益と植民地化による利益 (1920年)</p>  <table border="1" style="margin-top: 10px;"> <caption>貿易による利益と植民地化による利益 (1920年)</caption> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>利益 (億円)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>イギリス (貿易)</td> <td>3</td> </tr> <tr> <td>インド (貿易)</td> <td>9</td> </tr> <tr> <td>アメリカ (貿易)</td> <td>14</td> </tr> <tr> <td>満州 (植民地化)</td> <td>9</td> </tr> </tbody> </table> </div>	項目	利益 (億円)	イギリス (貿易)	3	インド (貿易)	9	アメリカ (貿易)	14	満州 (植民地化)	9
項目	利益 (億円)										
イギリス (貿易)	3										
インド (貿易)	9										
アメリカ (貿易)	14										
満州 (植民地化)	9										

<満州を手放すべき>

- ・ 「満州へ兵士を送ると、中国の日本に対する抵抗心を大きくさせてしまうから手放すべき」
- ・ 「満州を手に入れたところで、日本の資金力ではイギリスのように世界各地に植民地を拡大することはできないはずだ」
- ・ 「満州へ兵士を送るとなると、食料などが不足するので国民生活はさらに苦しくなる」
- ・ 「気候の厳しい満州で生活するのは難しいので、手にしたとしても利益は少ない」

4 満州事変に対する国民の反応や満州に移住した人の体験談を知り、当時の世論と自分の考えを比較する。(15)

【手だてdに対して予想される生徒の姿】

- ・ 当時の人々の思いと自分の考えを照らし合わせようとする姿
- ・ その後の日本がどのようになっていったかを考えようとする姿

- ・ 「当時の人も、これまでの犠牲を考えると満州を手放すことはできないという考えは持っていたんだ」
- ・ 「満州の資源を利用すれば貿易を活発になると思っていたんだ」
- ・ 「満州がこの状態なら日本国内と変わらないから手に入れなくてもよかったのではないかな」
- ・ 「景気が良くなったはずなのに、どうして人々のくらしは貧しいのだろう」

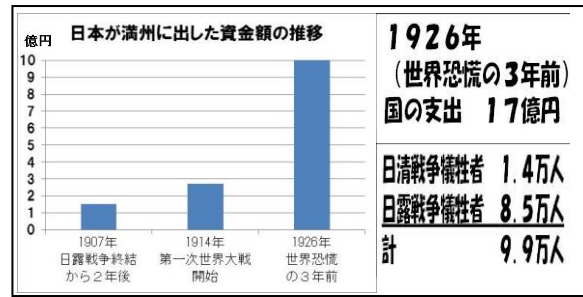
5 今日の授業を振り返り、授業日記を書き、発表する。(6)

- ・ 「侵略はいけないと思っているけれど、それしか日本に道はなかったんだ」
- ・ 「満州を植民地にして国民は幸せになったのだろうか」

(6) 評価

- (1) 満州を手に入れるべきか、手放すべきかについて、調べたことを明らかにしながら自分の考えを発表できたか。(活動3・4の話し合いの様子より)
- (2) 国民生活の改善について満州の植民地化と非植民地化の両方から考え、ノートにまとめたり、発表したりすることができたか。(活動4・5の話し合いの様子、ノートより)

- ・ 日本が満州に投資した金額や日清日露戦争での犠牲者数についての意見を取り上げ、当時の国民の感情について考える時間を設定する。



- ・ 当時の世論と体験談を聞いた感想を考える時間を設定する。

【手だてd】

当時の人々がどのようにして歴史を動かしたのかを考えるために、満州事変に対する世論と満州での体験談を提示する。

【世論】

①国財20億円と10万の仲間を犠牲にして得た権益を必ず守る。②軍需物資の注文が増え、景気が良くなる。③満州からは資源を安く手に入れられるし、生産物をどんどん売ることができる。

【体験談】

「政府は満州へ移住した日本人に中国人労働者よりも安い食費を支給していたので、移住した人たちは空腹に悩まされた。飢えをしのぐために、現地の食堂で無銭飲食したり中国人の飼っている豚や鶏、犬などを盗んで食べてしまったりする人もいた。」

- ・ 世論や体験談を読んだ感想を発表するように指示する。
- ・ 誰の意見に納得したかとその理由を授業日記に書くことで、友達と自分の考えを比較できるようにする。
- ・ 次時は、満州事変についての学習をすることを予告する。